

2014/12/1

しろひげ@Kurobane です。

12月になりました。

壁のカレンダーもあと一枚になりました。

そして、冬将軍がいよいよ到来する気配を、朝からのニュースは伝えています。

「師も走る」とされる月に、今年は望んでもいなかった鬱陶しいものが周辺を忙しそうに走り回っています。

鉢巻をしてたすきをかけて、空疎な言葉だけを飛び交わす情景は、去る年に静かに思いをいたしたい者には無粋としか映りません。

そう言えば彼らもかつては「先生」などと呼び合いながら、いっばしの「師」気取りであった人たちでした。

こんな時こそ、蕪村です。

いざや寝ん元旦は又翌（あす）のこと

三椀（わん）の雑煮かゆるや長者ぶり

この二つの句の裏側には、お金よりも志を尊ぶという蕪村の生き方がよくうかがえます。

世の些事に思いわずらっても仕方がないではないか。明日は明日のこと。その明日になれば、有り余る金はなくても心は長者という心意気が痛快ではありませんか。

拝金主義、何とかミクスとかいう時流に掉さし、利権にはしる輩にはそうさせればいいこと、という蕪村の声が聞こえそうです。

清貧に甘んじるとまではいい切れないにしても、己の生き方に自信があるのでしょう。

そうであればこそ、年末年始の根性の据え方が快いのです。爽快なのです。

はたして蕪村の境地に達することが出来るかわかりませんが、2014 年が過去の歳月にまじるその瞬間まで、いわゆる「数え日」を大事にしていきたいものです。

よい年をお迎ください。家々の垣根の満天星（どうだん）つつじの鮮やかな赤色と、街路  
樹の銀杏の黄色が秋を彩っています。

黒羽根整形外科  
黒羽根洋司